

2018.2.24【銀閣寺庭園とアカマツ林】庭園文化セミナーVol.13 活動レポート

【実施概要】

日時：平成 30 年 2 月 24 日

場所：京都造形芸術大学、銀閣寺、哲学の道ほか(京都市)

主催：(一社)ランドスケープアーキテクト (JLAU)

(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部 (CLA 関西)

講師：吉田昌弘(空間創研)、高梨武彦(京都造形芸術大学)

参加者：19 名(講師、スタッフ含む)

今回のセミナーでは、特別史跡・特別名勝である銀閣寺(東山慈照寺)を訪れ、室町時代の作庭手法を学びました。また、歴代の庭園において借景の技法として用いられた東山三山について、瓜生山に残るアカマツ林の景観に触れ、その重要性について学びました。



①ミニ講座・現地見学（講師：高梨武彦先生 会場：京都造形芸術大学）

京都市内を一望できる瓜生山のアカマツ林を目の前にして、アカマツ林の歴史から現状の管理状況や更新について、高梨先生に解説していただきました。

昔から京都の文化を支えているアカマツですが、室戸台風(昭和9年)で被害にあって以降、再整備されましたが、現在ではアカマツが育つ生態系の崩壊、松くい虫などの生き物による被害で東山三山では、ほとんど現存していない状況の中で、高梨先生は瓜生山に残る400本のアカマツ林を後世に残していくため、様々な研究や観察を行いアカマツ林の再生に取り組んでおられました。

難しい専門用語も分かりやすく説明してくださり、先生の授業を受けてみたいと思うほど、楽しいミニ講座となりました。

その後、実際にアカマツ林の中を歩きながら、講座での理解を深めました。



その後、京都造形芸術大学から、白川通りと哲学の道を散策しながら銀閣寺まで移動しました。

②銀閣寺(慈照寺)見学 (講師：吉田昌弘氏)

銀閣寺入口前にある園内案内サインを黒板とし、吉田講師の解説が始まりました。



足利義政の別荘として、京都だけでなく各地の寺院などから名石、庭木を集め庭園が造られました。が、義政の死後、荒廃が進み、16世紀中頃の戦乱により東求堂、観音殿(銀閣)を除き、ほとんどが消失してしまっています。

その後、1615年頃に改修され、今に至ります。

そのような時代背景の説明とともに、義政がどのような人物なのか、東山文化が今の私たちの日本文化に大きく影響していることなど、吉田講師が面白おかしく説明してくださいました。

園内には、様々な技法が使われており、入口すぐに表れる「折れ曲り」や「生け取り」、複雑な形をした池による「見え隠れ」とその池の護岸石組み、銀沙灘と向月台の造形と景観との調和・対比など、見所が沢山ありすぎました。



その中でも、樹木の剪定（すかし）技法に驚きました。伸びては切りを短いスパンで繰り返すことで、見事な樹形になり、クロマツの葉もハサミはあまり使わず、主に手作業で丁寧に透いていくそうです。



セミナー後の懇親会にも多くの参加をいただき、懇親会中には吉田講師や高梨先生の庭園やアカマツなどに対する熱い思いが講義の延長戦となっていました。



吉田講師は、四条通りの街路樹を全てクロマツにしてはどうかと、冗談交じりの話をおっしゃっていました。管理が大変だという意見に対し、職人が剪定（すかし）をしている様子も写真スポット（今時風に言うとインスタ映え）とすればいい、と聞いて、一気に現実的な話に聞こえたと同時に、そうならば今以上に京都が注目されるだろうな、と感じました。

(写真・文/坪倉淳、矢倉千聖)